

第一章

身近な植物の
生きざまを
のぞいてみよう

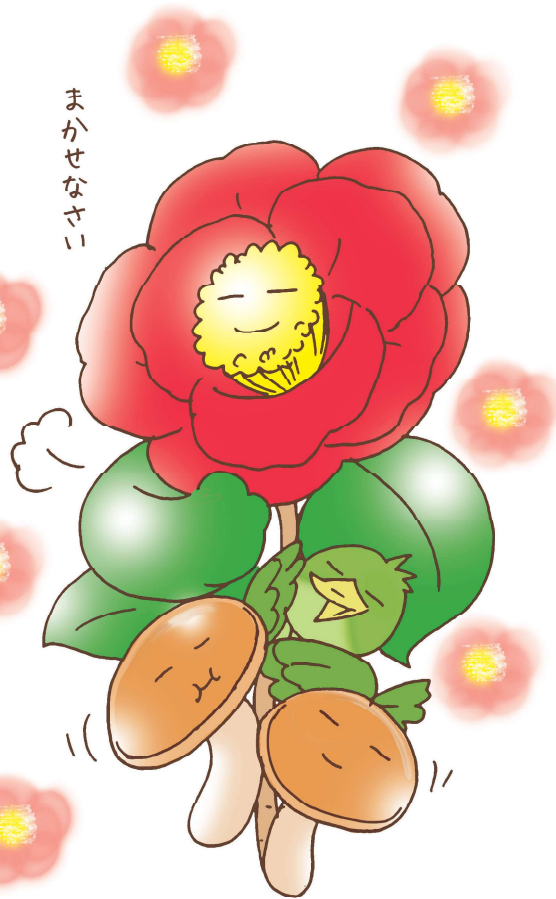
自分自身に関すること



ひそかにたよられています

ツバキ

まかせなさい



じょうりょくじゆ やせいしゆ いがい えんげい
常緑樹。野生種^{やせいしゆ}のヤブツバキ^{いがい}以外にも園芸^{えんげい}
ひんしゆ おお ひと え ぎ や え ぎ
品種^{ひんしゆ}が多い。一重咲き^{ひとえぎ}だけでなく、八重咲^{やえぎ}
き、ぼたん咲き^{ぼたん}など花^{はな}のかたちや色^{いろ}はさま
ざま。タネからは油^{あぶら}がとれる。

ツバキは一年中、ずっと緑色の葉をつけている「常緑樹」だ。とても人気があり、庭木としてもよく植えられる。日本だけで千を超える園芸品種がある。種類がとも多いから、花の咲く時期もいろいろだ。ざっと十一月から四月が開花期になる。とくに、寒い季節のツバキはひとときわ目をひく。

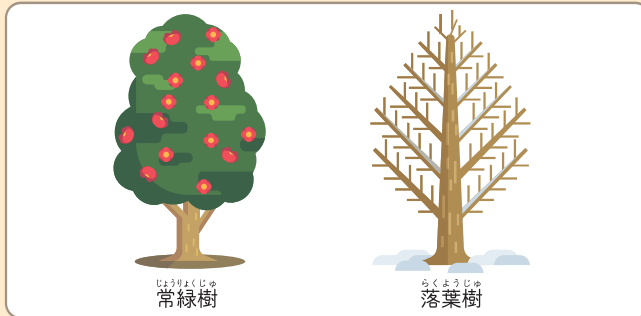
雪が降る中で咲く、野生の赤いヤブツバキ。そこによくやってくるのがメジロだ。花のみつは、冬のあいだの貴重なごちそ

なるほど!

常緑樹と落葉樹

マツ、スギ、ツバキなど緑色の葉を一年中つけている樹木を常緑樹という。

イチヨウやウメなど、冬をこすときなどに、葉がすべて落ちる樹木は落葉樹とよばれる。



うになる。

真冬まふゆに咲く花はなを見つけるのは、かんたんではない。だから、よく目立めだつツバキの花はなはメジロにとって大助おたすかりだ。

でもじつは、ツバキもちょっと得とくをする。みつを吸すったメジロを見ればわかるが、くちばしのまわりは花粉かふんだらけだ。それをほかの花はなまで運はこんでくれるのだから、おたがいさまでもある。

ツバキキンカクチャワンタケというきのこも、ツバキをたよる。こびとのお茶ちやわんのような



ツバキとメジロ



ツバキキンカクチャワンタケ
ツバキから栄養えいようをもらっているきのこで、
ツバキのそばでしか発生はっせいしない。

きのこで、地面に落ちた花のまわりに顔を出す。寒い時期のきのこはめずらしく、ツバキがなるところでは見られない。

ツバキは寒い中でも元気に花を咲かせ、野生の鳥やきのこの生活を支えている。いってみれば、とてもたよりがいのある植物だ。花のあとにできるタネは油になるし、子どもたちが遊びでつくる笛にもなる。

そこにいるだけで安心できるツバキのようなたよれる人、きみのまわりにもいるかな？

なるほど!

つばき油

ツバキのタネからしぼりだされたつばき油は天然の植物性油で、有名な戦国武将、徳川家康もてんぷらを揚げて食べていたという。

むかしは灯りなどの燃料油として使われ、いまは髪や肌の手入れにも利用されている。

